

## 定期接種化を検討しているワクチンに関する検討状況及び 今後の検討の進め方について

### 経緯

- 平成 29 年 10 月 第 12 回 予防接種・ワクチン分科会において、委員の意見として、これまで懸案事項にあがっていたものが、どのような検討状況であるかを明らかにしてほしいと要望があった。
- 平成 29 年 12 月 第 20 回 予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会において、定期接種化を検討しているワクチンのこれまでの審議状況について整理して提示した（参考資料 2）。
- 平成 30 年 1 月 第 13 回 予防接種・ワクチン分科会においても、同資料に基づき定期接種化を検討しているワクチンのこれまでの審議状況について整理して提示した。

### 検討の進め方

- 今後、参考資料 2 に示したワクチンについて、計画的に検討を進めることが必要となっているため、事務局において、小委員会委員長と相談し、小委員会における当面の検討の進め方を策定させていただいた。この当面の検討の進め方に沿って、今後、小委員会において御議論いただきたい。

# 定期接種化を検討しているワクチンのこれまでの審議内容及び 当面の検討の進め方について

別添

ワクチン名	委員からの主な意見・審議内容等	当面の検討の進め方
<b>おたふくかぜ ワクチン</b>	仮に広く接種をするに当たっては、より高い安全性が期待出来るワクチンの承認が前提であり、新たなMMRワクチンの開発が望まれる。 (平成25年7月 第3回予防接種基本方針部会)	平成29年9月に日本耳鼻咽喉科学会よりムンプス難聴に関する全国調査の結果が公表され、また、平成30年5月に予防接種推進専門協議会から、「おたふくかぜワクチンの定期接種化に関する要望書」が提出されたことを踏まえ、今後の検討の進め方について、ご検討いただきたい。(資料3-1~3参照)
<b>不活化ポリオ ワクチン</b>	不活化ポリオワクチンの5回目接種の必要性が議論され、改めて、抗体保有率の経年変化について調査を継続し、その結果に基づき5回目接種の必要性を検討する、とされた。 (平成25年7月 第3回研究開発及び生産流通部会)	<p>それぞれのワクチンについて、平成29年度に実施された研究の概要が、5月末にまとまる予定。その内容を、次回の小委員会において、ご報告いただいた上で、ご検討いただきたい。</p> <p>※帯状疱疹ワクチンについては、現在検討中の生ワクチンに加え、新たに本年3月に不活化ワクチンが薬事承認された。本日、製造販売業者から当該製剤についての説明を行っていただき、その内容を踏まえ、次回の小委員会において、議論の進め方をご検討いただきたい。</p>
<b>沈降13価肺炎球菌 結合型ワクチン</b>	沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV13)を高年齢者の肺炎球菌感染症の定期接種として使用することの是非について議論され、PCV13の評価に必要な科学的知見をできるだけ早期に研究班等で収集した上で、実施する可能性のある施策について、費用対効果等の分析・評価を実施することとされた。 (平成27年12月 第2回ワクチン評価に関する小委員会)	
<b>ロタウイルス ワクチン</b>	以下の3つの課題について、これまでに収集された科学的知見が報告され、広く接種を勧めていくための検討を進めていくためにはいくつかの課題が依然残っていることから、引き続き、研究班のデータや他の知見を収集した上で、一定の整理ができた段階で審議会に報告することとされた。 ・腸重積のベースラインデータの整理 ・リスクベネフィット分析 ・費用対効果の推計 (平成28年12月 第5回ワクチン評価に関する小委員会)	
<b>帯状疱疹 ワクチン</b>	帯状疱疹の疾病負荷や帯状疱疹ワクチンの効果について議論が行われ、論点を整理した上で、課題とされたデータが出てきた段階で、再度検討することとされた。 (平成29年11月 第7回ワクチン評価に関する小委員会)	
<b>沈降精製百日せき ジフテリア破傷風混合 ワクチン</b>	DTに代わりDTaPを用いることで見込まれるベネフィット・リスクについて議論が行われ、再度論点を整理した上で、議論可能となった段階で引き続き検討することとなった。 (平成29年11月 第7回ワクチン評価に関する小委員会)	
		国立感染症研究所 感染症疫学センターより本年1月から開始した感染症法に基づく全数報告に基づく最新の百日せきの発生状況を本日までご報告いただき、その内容を踏まえ、次回の小委員会において、ご検討いただきたい。